王塚古墳（嘉穂郡桂川町）

王塚古墳に併設して王塚装飾古墳館が所在する/王塚古墳公園として整備されており、古代の丘には移築復元された古墳もあった

前方の上に王塚古墳が所在する

video

「史蹟 王塚古墳」とある

これが王塚古墳/6世紀中頃築造の二段築成の前方後円墳/左手が後円部、右手は前方部/説明板が立っており、後円部に横穴式石室が開口している video

玄室への入口上に小窓を開けていること、奥壁に石棚を突き出させていること、二人用の棺床をもつ肥後系の石屋形を設置し、その前面に一対の灯明台石を立てていること、石枕が置かれていることなど精巧な内部施設を有していることや、壁面全体に色彩豊かな文様が描かれて豪華絢爛な装飾壁画を有することなどが石室の特徴となっている/なお、天井石をはじめとする石室の大部分には、地元産の花崗岩などが使われているが、側石以外の石屋形や灯明台石・石枕は阿蘇の溶岩(八女地方産か)製で、当時の各地域間における活発な交流を物語っているという/この地域の大豪族である「穂波の君」の墓とみてよいともいうが・・・

特別史跡

王塚古墳の石室と壁画

時代
・6世紀(古墳時代後期)

遺体を納めた横穴式の石室は、主軸線を後円部の中心に正しく向けており、くびれ部に近い北西側を入口としています。

前・後の二室に分かれた石室は、全長6.5メートル、後室(玄室)の長さは約4メートル、幅約3メートル、高さ約3.5メートルと大形で、石枕の数から少なくとも四体が安置されたようです。

この石室の特徴は、奥壁に石棚を突き出させていることや後室への入口上に小窓を開けていること、また、二人用の棺床をもつ肥後系の石屋形を設置し、さらに、その前面に一対の灯明台石を立てるなど、他に類がない極めて複雑な構造をとる点にあります。

なお、天井石をはじめとする石室の大部分には、地元産の花崗岩などが使われていますが、寝台以外の石屋形や灯明台石・石枕は阿蘇の溶岩(八女地方産か)製で、当時の各地域間における活発な交流を物語っています。

有名な壁画の特色は、壁のほぼ全面にわたって、わが国では最多の五色(赤・黄・緑・黒・白)を用いて各種の図像を華麗に描く点にあり、その豪華さは他に例を見ないものです。

騎馬像や盾・矢筒(靫)・刀などは、死者の世界の静けさを守るために並べ置かれた物でしょう。蕨手文や三角文が壁いっぱいに描かれて目立ちますが、大形の同心円文は意外に少なく、県南の筑後地方の壁画との違いをよく表しています。

なお、双脚輪状文は、他に弘化谷(福岡)、釜尾・横山(熊本)の三古墳しか描かれていない極めて珍しい文様ですが、残念ながらその意味はわかっていません。

王塚古墳の壁画は、わが国の装飾古墳の頂点の一つを極めた代表例であり、この地域の大豪族である"穂波の君"の墓とみてよいでしょう。

桂川町教育委員会

これが横穴式石室の入口/施錠されている

中を覗くと、もう一つ扉があり施錠されていた

video

後円部を後ろから見たところ/二段築成であることが見て取れる

video

その右手で、後円部裾から前方部方向を見たところ

video

同じく左手で、後円部裾から前方部方向を見たところ/こちら側にも括れ部付近に説明板が立っている video

前方部裾から後円部方向を見たところ

video

「前方部は土取り工事によって大部分が削り取られ・・・」と記されている

特別史跡 王塚古墳

・昭和十二年（一九三七）六月十五日史蹟指定
・昭和二十七年（一九五二）三月二十九日特別史跡指定
・昭和五十二年（一九七七）七月二日追加指定

所在地　嘉穂郡桂川町大字寿命坂本

時　代　六世紀（古墳時代後期）

王塚古墳は、穂波川の東岸、海抜三十四メートル前後の台地上に築かれた前方後円墳で、遠賀川流域では最大の規模を誇り、わが国を代表する装飾古墳として著名です。

昭和九年（一九三四）、鉱害復旧のための土取り工事中に石室が発見され、内部からは、装身具（鏡・玉・鈴など）、武器（刀・鉾・鏃など）、武具（鎧）、馬具（轡・鞍など）、土器（土師器・須恵器）などが出土しました。

墳丘は、黄色土と黒色土とを交互に盛り上げて二段に造られており、埴輪（円筒・蓋）をめぐらし、表面には土砂が流れないように石を葺いています。また、盛土の中からは、儀式に使ったとみてよい土器（土師器・須恵器）が出土しました。

前方部は、土取り工事によって大部分が削り取られ、石室も保護のために昭和四十二年（一九六七）から見学禁止となりました。その後、昭和六十二年度（一九八七）からはじまった保存整備事業により、石室保存施設の建設と前方部を除く墳丘の復原などの工事が行われました。

その結果、二十数年ぶりに壁画の公開が実現しました。

発掘調査の結果、王塚古墳の規模は、

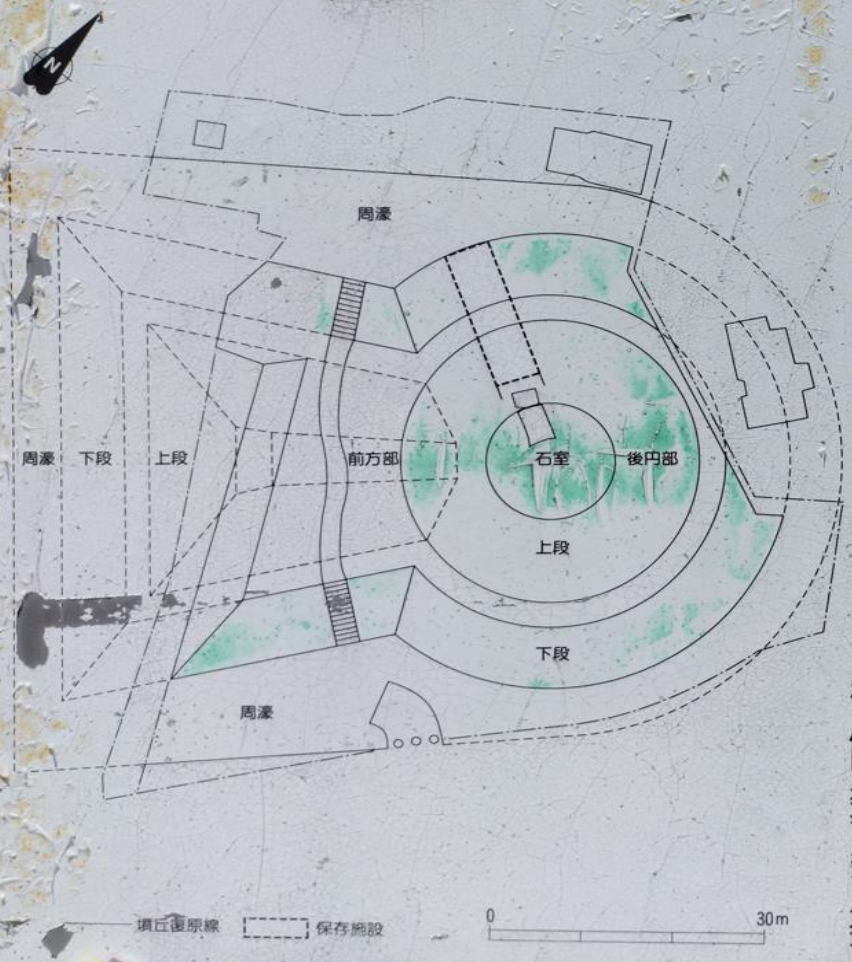
全　長　約八十六メートル　後円部高　約八・五メートル
後円部径　約五十六メートル　前方部幅　約六十メートル

と復原されています。

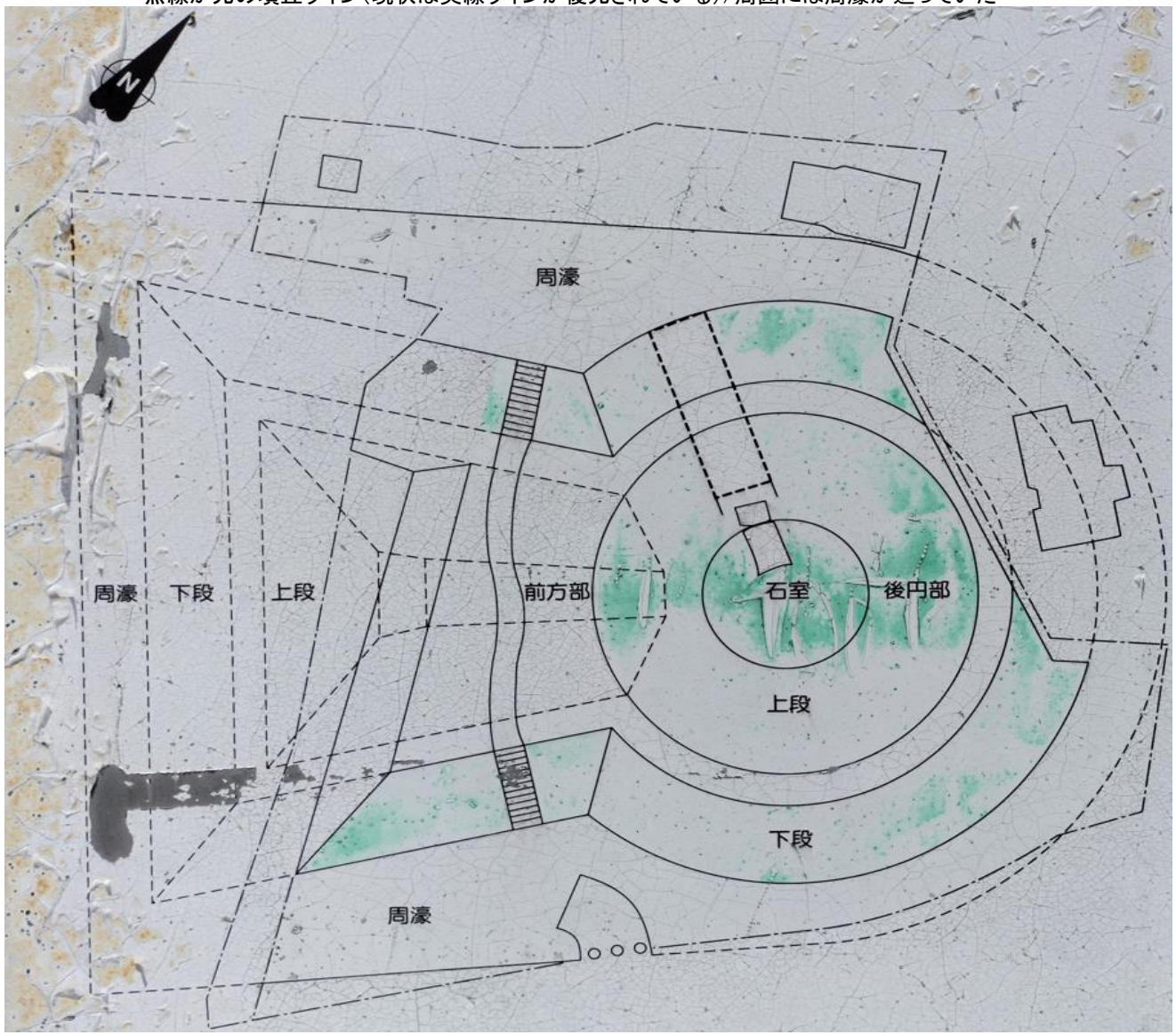
周濠と前方部については、完全に復原できていませんが、左の復原図によって、築造当時の壮大な墳丘を思い浮かべてください。

桂川町教育委員会

墳丘復原図



点線が元の墳丘ライン（現状は実線ラインが復元されている）/周囲には周濠が巡っていた



この左手の住宅があるエリアは前方部が削り取られた部分

前方部の墳頂に登って後円部方向を見たところ

video

そこで、振り返って前方部が削り取られてしまった方向を見たところ

前方部墳頂の左手で、後円部方向を見たところ

video

そこで、右手に前方部が削り取られてしまったエリアを見たところ

それでは後円部墳頂に登ってみよう！ video

後円部墳頂から前方部方向を見たところ

少し後ろに下がって、後円部の墳頂を前方部方向に見たところ

video

後円部の墳頂から後ろの一段目のテラスへ下りて、左手を見たところ

video

同じく、右手を見たところ

なお、これは王塚古墳の墳丘近くにあった「王塚古墳ゆかりの石碑等」

王塚古墳ゆかりの石碑等

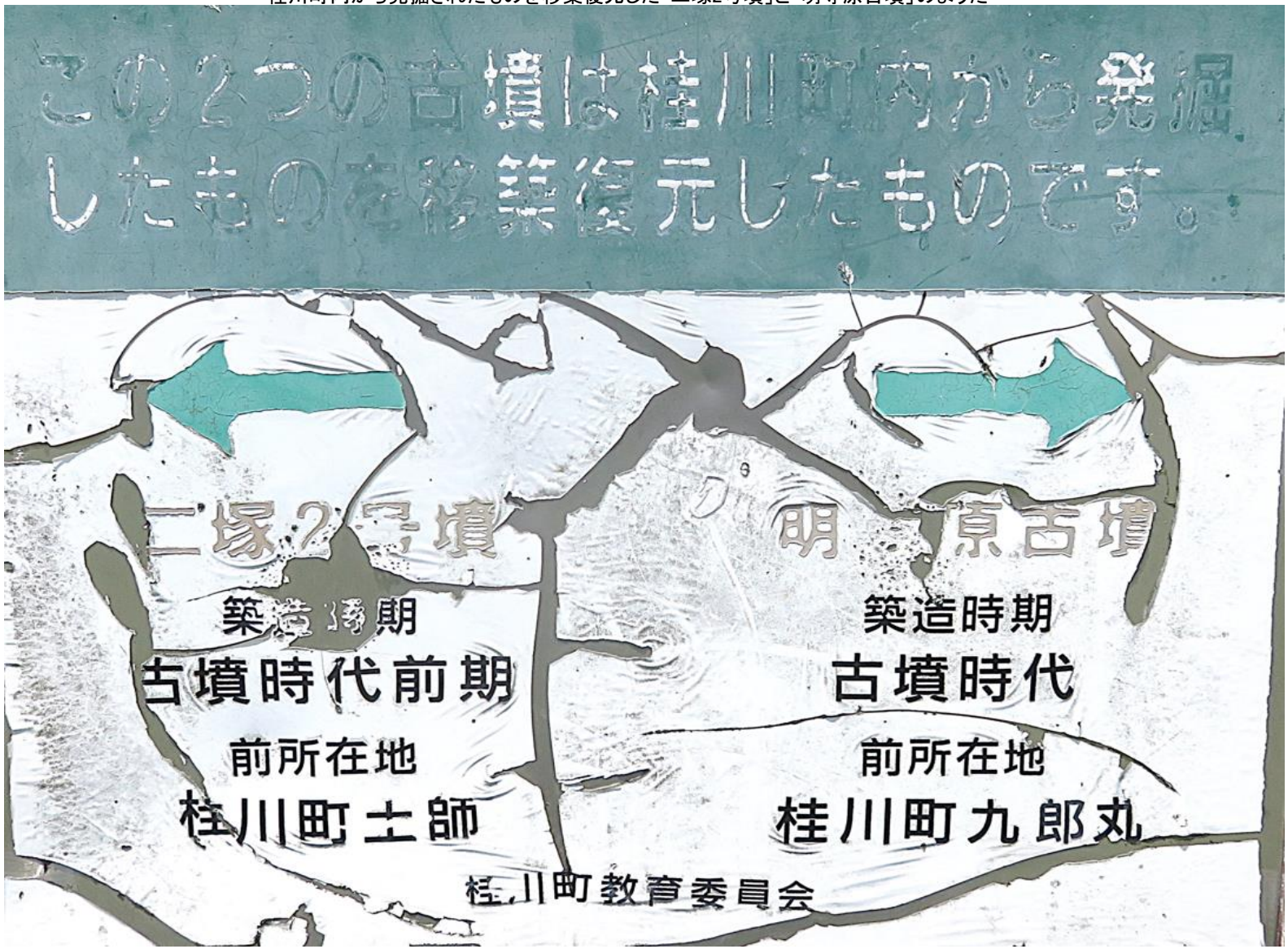
現在の王塚古墳は、平成5年に保存修復工事が完成しました。ここに設置しているのは、王塚古墳が保存整備される以前の旧保存施設の整備のために、地元の住民の方が寄付された時の記念碑と石柱、手水鉢（ちょうずばち）です。
また右側に積まれている石は、古墳の墳丘の斜面におかれた葺石（ふきいし）です。この下に、王塚古墳の石室の閉塞石（へいそくせき）を保管しています。

桂川町教育委員会

右手のブロックで囲まれた中に葺石が入っている

さて、「古代の丘」に二つの墳丘が見える/中央前方に説明板が立っている

桂川町内から発掘されたものを移築復元した「二塚2号墳」と「明寺原古墳」のようだ



こちらが明寺原古墳

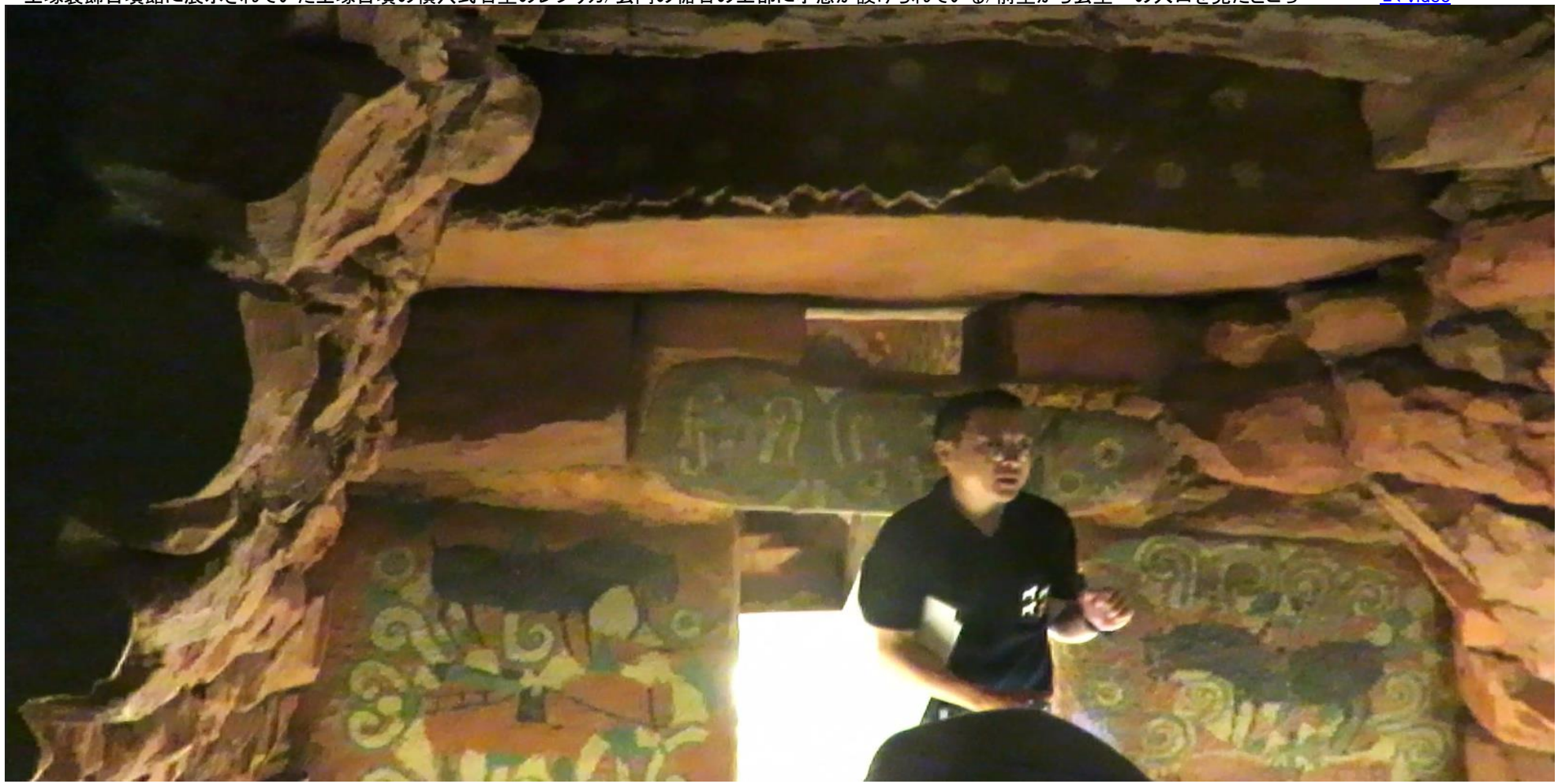
墳頂には竪穴式石室が露になっている

こちらは二塚2号墳

こちらも箱式石棺が露になっている

video

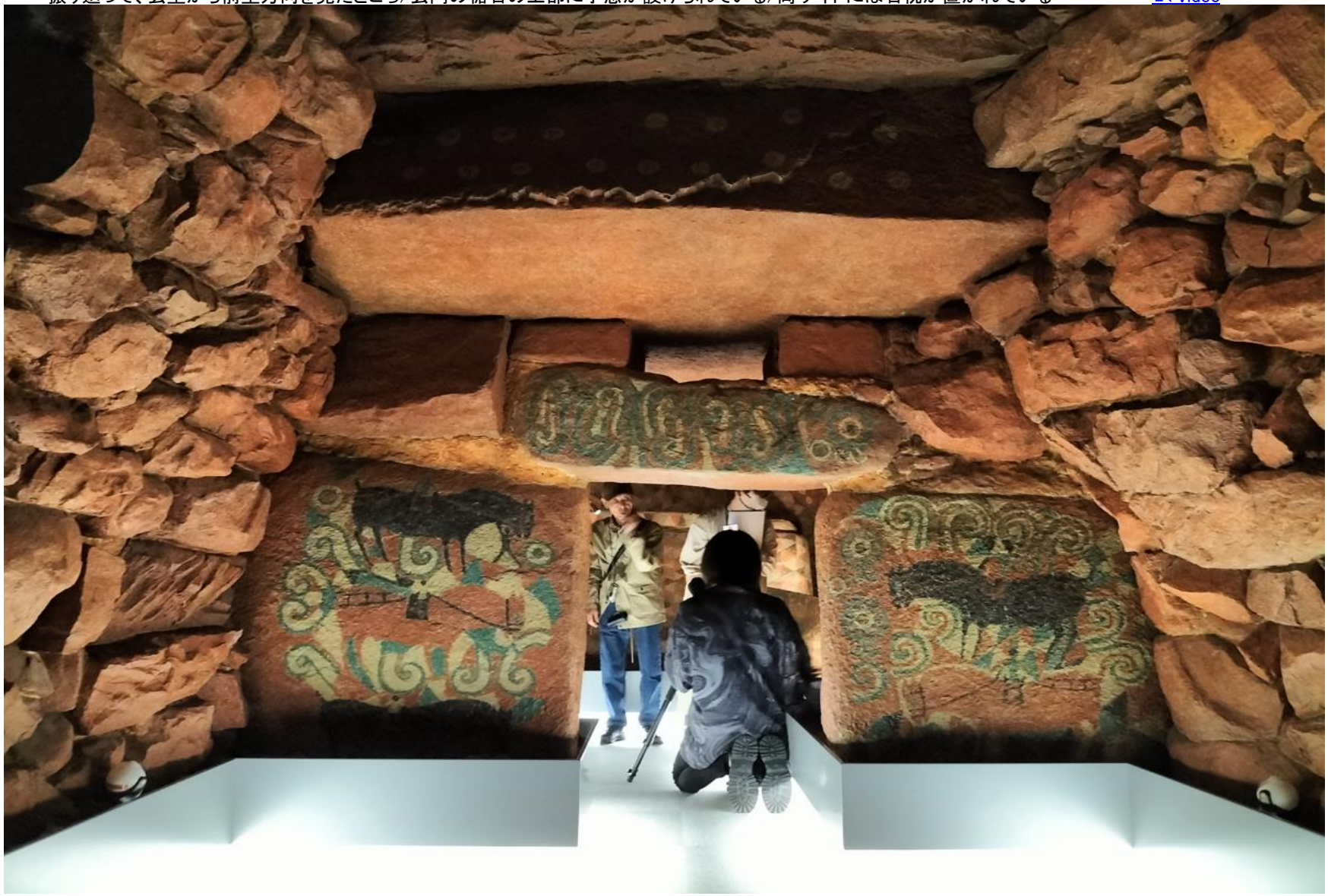
王塚装飾古墳館に展示されていた王塚古墳の横穴式石室のレプリカ/玄門の楣石の上部に小窓が設けられている/前室から玄室への入口を見たところ video

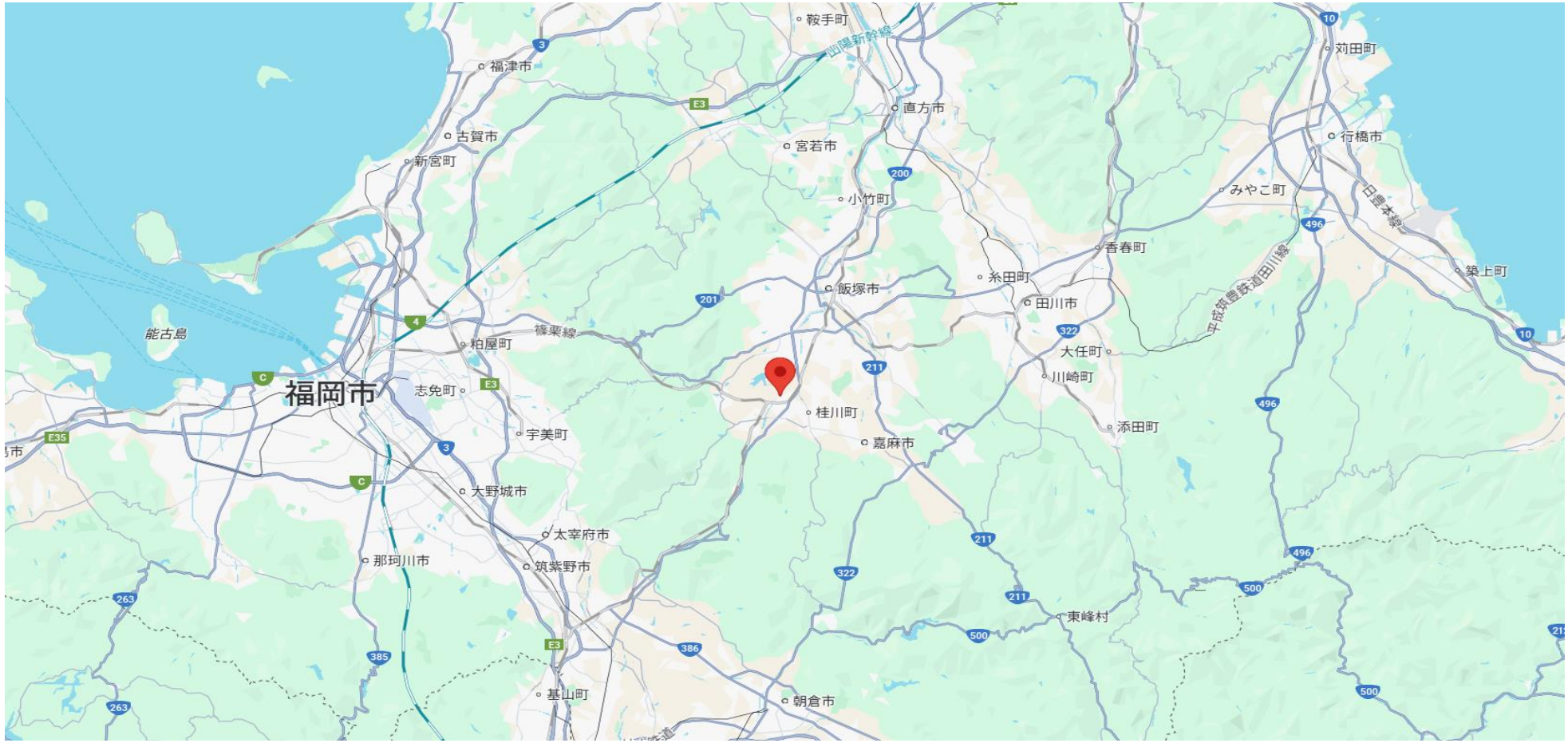


玄室の奥壁を見たところ/石屋形の上に石棚が設けられ、手前両サイドには灯明台石が置かれている

video

振り返って、玄室から前室方向を見たところ/玄門の楣石の上部に小窓が設けられている/両サイドには石枕が置かれている video




鞍手町
山陽新幹線
福津市
直方市
苅田町
古賀市
宮若市
行橋市
新宮町
小竹町
みやこ町
日豊本線
香春町
筑上町
糸田町
飯塚市
田川市
平成筑豊鉄道田川線
篠栗線
能古島
粕屋町
大任町
福岡市
志免町
川崎町
桂川町
宇美町
添田町
嘉麻市
大野城市
太宰府市
那珂川市
筑紫野市
東峰村
基山町
朝倉市